

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		心の教育の充実（人権尊重の精神や人間関係構築力の育成）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	○自ら視線合わせてあいさつをし、特に感謝の気持ちを伝え、よいあいさつを価値付ける。	95.1%	○アンケート調査や行動自己点検によって、「よいあいさつをしている」等の項目への肯定的な回答を95%以上にする。	88.3%	B
2	○人権教育・道徳教育において自他を尊重する指導の充実を図るとともに、いじめ問題の未然防止・早期解決に努める。	97.6%	○アンケート調査や行動自己点検によって、「いじめはしない・させないようにしている」等への肯定的な回答を95%以上にする。	96.9%	A
3	○発達段階に応じた挑戦・失敗、リーダー・フォローシップ等を体験・体感させる。	97.6%	○アンケート調査や行動自己点検によって、「やりたいことがある」「挑戦したことがある」等への肯定的な回答を90%以上にする。	91.2%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○あいさつの定着には教員・児童とも一定の成果があった。特に低中学年児童は、あいさつが定着している。一方、昨年度に引き続き高学年児童への定着や校内での会釈や地域でのあいさつ等でさらなる改善が必要であり、社会性の土台として「あいさつは当たり前」との意識の高揚を図りたい。</p> <p>○いじめ・人権尊重については、児童の意識が昨年度よりもさらに高い達成度であった。しかし、児童間の「いじわる、いたずら、いやがらせ、いじり」「ちょっとした暴力・暴言」など、感情のままの行動を抑制する心については、さらに指導の充実が必要である。異学年交流、ゲストティーチャー等による特別授業、家庭との連携をさらに充実させることで「いじめ0」を達成したい。</p> <p>○年間を通して、「夢を育む特別授業」として、パラリンピアンやアスリート等による特別授業を各学年で実施し、「挑戦」「チャレンジ」を児童に訴え、失敗を許容して、互いに高め合う風土づくりに努めてきた。次年度も引き続き、たくましい児童を育成したい。</p>					

重点領域 2		知力の育成（知的好奇心や思考力・判断力・表現力の育成）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	○知的好奇心や問題意識の喚起、取れんに向う意見交流、自己評価を実践する。	87.8%	○アンケート調査等によって、「意見を発表した・話し合う活動があった」等への肯定的な回答を90%以上にする。	79.1%	B
2	○1年間の教科等の横断的な扱い・6年間の系統性から指導計画を位置付ける。	90.2%	○アンケート調査等によって、「学習が分かる・楽しい」等への肯定的な回答を90%以上にする。	92.7%	A
3	○学習問題の提示や自己の考えの自覚や変容に気づく場面を週案に計画し、実践する。	92.7%	○アンケート調査等によって、「学習の仕方が分かる」等への肯定的な回答を90%以上にする。	89.9%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○校内研究のテーマを国語科における「話すこと・聞くこと」と設定し、児童が主体的に話し合う活動の充実について指導法を学び合った。一定の成果は得られたが、学習活動全般に活かしきれていない。研究で押さえた観点の実践の深まりや日常的な週案への反映と実践という面でさらに改善を要する。</p> <p>○指導計画を工夫した学習指導により「基礎的な理解・技能の習得」や「学習の満足感・達成感」は9割前後の高い数値、一方「話し合い」や「深い学び」については8割前後の結果となった。</p> <p>○学力の二極化が本校の課題の一つである。基礎的な学力が不足する児童が全学年で見られる。習熟度別の学習指導・個別最適な学習指導をより充実させることが必要である。また、自己の課題を把握・理解して、自分なりの解決方法を見出す児童を育成するため、より主体的な学びの学習の展開が必要になる。</p>					

<様式1>

重点領域3		健やかな体、たくましい心の育成（健康増進・体力向上、精神的なたくましさの醸成）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○運動特性に即したためあて学習・運動量を確保した授業を実施する。	90.2%	○アンケート調査等によって、「体を動かすことが好き・体育が好き」等への肯定的な回答を90%以上にする。	88.4%	B
2	○主体的に一定期間、運動に取り組む「○○ウィーク」等を実施する。	85.4%	○運動への意識等から児童を抽出し、定点観測的な手法により、進んで運動に取り組む態度の出現が80%以上にする。	86.7%	B
3	○生活の実態アンケートや専門家・地域との連携による学習、参観の機会を設定する。	87.8%	○アンケート調査等によって、睡眠・栄養・運動などの重要性への理解について肯定的な回答を85%以上にする。	80.3%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○体力の向上に向けた体育授業の充実により「体を動かすことが好き・体育が好き」の回答は高かった。しかしながら、中休み・昼休みのいずれかは教室で過ごさざるを得ない状況で、運動量を確保すること、体を動かす機会の設定の工夫は継続していく必要がある。</p> <p>○健康習慣の定着について、児童の肯定的な評価が8割にとどかず、比較的やや低い数値であった。学年が上がるほど「持久走・長縄・投力」のチャレンジウィークについて前向きに参加できない児童が一定数見られる。取組内容・方法の工夫改善が必要となった。</p> <p>○睡眠に関わる就寝・起床時刻の習慣化、手指の消毒など衛生面での意識については、保護者との連携が重要である。保健便りなどの情報発信や第3学年からの保健学習など、十分な理解を促しながら家庭と協力した行動の定着を図るようにする。また、医師や看護師など専門家による指導等の充実を図りたい。</p>					

重点領域4		地域に根ざす学校づくり			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○教科等の特性や学年の発達段階等に応じて、意図的計画的に地域学習を取り入れる。	82.9%	○学校や自分の住む街に対して肯定的に捉える児童を90%以上にする。	92.2%	A
2	○地域に根ざす学校という自覚のもと、地域人材活用、保幼小中連携による教育活動を進め、児童に地域行事への参加を促す。	80.5%	○学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信に係る肯定的評価を90%以上にする。 (上段：文書、HP、すぐーる 下段：保護者への報告・対応)	88.4%	B
3	○学校からの情報発信の基盤として、学校・学年だより、学校掲示板等を工夫・改善する。	85.4%		89.7%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○各学年において、地域素材・人材を活かした学習を展開できた。</p> <p>○豊洲の街に関して肯定的に感じる児童は9割と高い数値を得た。今後も地域学校協働本部（とよにしSC）、豊洲町会、商工会との連携を深めるとともに、地域人材・地域素材を活用し、地域学習を推進していきたい。</p> <p>○学校が何をしているか。どんな学校なのか。学校に対する理解度をさらに上げるため、学校ホームページを改定し、さらに充実を図りたい。</p>					

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）